特別支援学級　算数科学習指導案

1　単元　　１０００を こえる 数（本時３／４）

2　本時の目標

Ａ・Ｄ児	１００の量感を体得することができる。
Ｂ・Ｃ児	１０の束、１００の束を作りながら１０００の量感を体得することができる。
Ｅ・Ｆ児	１０の束や１００の束を組み合わせて、１０００の量感を体得することができる。

（知識・技能）

3　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
導入 (3)	1　ストローの束を見る。	・視覚的に数を捉えられるように、１０００本のストローの束を見せて、児童の関心を高める。
課題 (2)	2　本時の学習課題を把握する。	・課題を板書する。
	ストローがいくつあるか考えよう。	
展開 (10)	3　ストローの束が何本あるか予想して、発表する。（丸自） ・「１００本」・「１０００本」 ・「５０００本」・「１００００本」 4　数を確かめるために、ストローを数える。 Ａ・Ｄ児：１０の束を作る。 Ｂ・Ｃ児：１０の束を１０個集めて、１００の束を作る。 Ｅ・Ｆ児：１００の束を作ったり、他児童の作った束を集めたりして、全部でいくつあるか数える。	・発問「このストローの束いくつあると思う。」 ・「わからない」と答える児童や「少ない数」を答える児童に対しては、第１時に学習した１０の束が１０個で１００になることを思い出すように伝える。 ・Ａ児が活躍できるように「Ａさんは、１０まで数えられることができるよ。」と話す。 ・Ｄ児が、何をしていいか分からないときは、「Ｄくん、１０をたくさん数えるの速いよね。」と声をかけ、動機付けする。 ・Ｂ・Ｃ児が、１０の束や１００の束を作ることが思いつかない場合、あらかじめ作っておいた束を見せ、ヒントを与える。 ・Ｅ・Ｆ児が、ストローを数えることだけに集中してしまったら、「このままでは、全部数えきれないよ。」と声をかけ、全体に目を向けられるように促す。 ・１０の束や１００の束にしやすくするために、輪ゴムや「１０、１００」と書かれた表示を用意しておく。
終末 (10)	5　１０の束、１００の束、１０００の束のストローを見る。 6　量感クイズを行う。答えの根拠も発表する。（花丸自） ・さっき数えた１００の束が１０個分くらいあると思うので、１０００本だと思います。 ・１０００の束の半分ぐらいだから、５００本だと思います。	・１０、１００、１０００の量感を与えるために、１０の束、１００の束、１０００の束のストローを実際に持つよう指示する。 ・１０００本や５００本のストローを見せ、「何本ぐらいでしょう」と質問し、精度の上がった答え方を引き出す。 ・理由も含めて発表できた児童に「いい勉強をしたね。」と称賛の言葉をかける。

4　評価

Ａ・Ｄ児	１０の束のストローを作ることで、１００の量感を体得することができたか。
Ｂ・Ｃ児	ストローを使って、１０の束、１００の束を作ることで、１０００の量感を体得することができる。
Ｅ・Ｆ児	ストローの束を作ることで、１０の束や１００の束の組み合わせで、１０００の量感を体得することができる。

（活動４と活動６の発言から）